令和５年度　第３号
令和５年６月２９日発行
横浜市立藤の木中学校
横浜市南区大岡四丁目４４番１号
０４５－７１４－２８１７

学校だより

見方を変えて

副校長　宮崎哲浩

４月に赴任して三カ月近くが経ちました。入学式・始業式に始まり、部活動、生徒総会、体育祭、各学年の校外学習と、多くの活動を通じて藤中の良さを実感している次第です。今回私は２年生の自然教室に同行し、生徒達が田植え体験、箸や団扇などのモノづくりなどを通して自然を満喫している姿をみることができました。

さて、4月、5月が過ぎて6月となりました。6月といえばやはり思いつくのは「梅雨」ではないでしょうか。では「梅雨」に関わる言葉を紹介していきます。

【五月雨】　梅雨の別名。旧暦5月に降る雨のことです。語源には諸説あるのですが「さみだる」という昔の言葉が元になっているそうです。「さ」は神様を表す語句で「みだる」はお下がりになるという意味、そこから天から貴重な水が下がってくるという意味になります。とても深い意味合いが含まれていたのですね。また松尾芭蕉の「五月雨の降り残してや光堂」（岩手県平泉）という俳句があります。美しく輝く金色の光堂に感動して詠まれた一句です。私の好きな俳句の一つでもあります。

【紫陽花】　梅雨の時期の咲く花に紫陽花があります。上大岡駅から藤の木中に向かう途中、たくさんの緑に触れることができます。その中に美しく艶やかに咲く紫陽花を目にします。雨に濡れながら咲きほこるこの花には見る者を感動させるとても大きな力があります。鎌倉にある明月院という有名なお寺の別名は「あじさい寺」。雨の鎌倉も趣深いです。足を運んで、心を晴れやかにしてみるのも良いかもしれません。

【七夕】　梅雨の間には七夕という節目があります。１年に１度しか会えない織姫と彦星が再会できる日ですが、やはり雨がふることも多いです。七夕当日に降る雨のことを【洒涙雨】といいます。会えない悲しみから流れる涙のことです。悲しいですが美しい言葉です。

【梅雨】というと「うっとうしい」、「ジメジメ」、「蒸し暑い」といったマイナスのイメージが浮かびますが、見方を変えたり、心のもち方を変えたりすることでそのもののもっている良い面が見えてくるのではないでしょうか。そしてこのことは、日常生活や人との付き合い方にも当てはまります。見方を変えてみる。そして、そのものを良いところを見つけられる、そんな人でいられるよう心掛けたいです。